

[シンボルマーク]



必要性

『誘客』と『おもてなし』は、観光の両輪

- ①『観光』は、外貨をもたらす重要な産業
- ②観光振興を図るには、『誘客活動』と『リピーターの確保』が重要
- ③『リピーターの確保』には、『おもてなしの向上』が必要!
- ④追い風の 今がチャンス!

現状

- 観光客延べ数は、増加基調
- 観光消費額も、増加傾向
- 観光消費額対 GDP 比は、上昇傾向

観光振興材料

- 二つの世界文化遺産
 - ①「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」
 - ②「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」
- 「日本遺産」認定
 - ①国境の島 壱岐・対馬・五島 ~古代からの架け橋~
 - ②鎮守府 横須賀・呉・佐世保・舞鶴~日本近代化の躍動を体感できるまち~
 - ③日本磁器のふるさと 肥前 ~百花繚乱のやきもの散歩~
- ラグビーワールドカップ 2019
- 2020年東京オリンピック・パラリンピック
- 2022年「九州新幹線西九州ルート」開業 等

《 長崎県総おもてなし運動 》

目的

『おもてなし日本一』

スローガン : 今こそ、力を合わせて、『おもてなし日本一』へ 挑戦!

全地域で、産・学・官・民、協力して、おもてなし活動を実践

目指す姿

○『ワンランク上のおもてなし』で、観光客を『笑顔にさせる対応』を目指す!

具体的取組

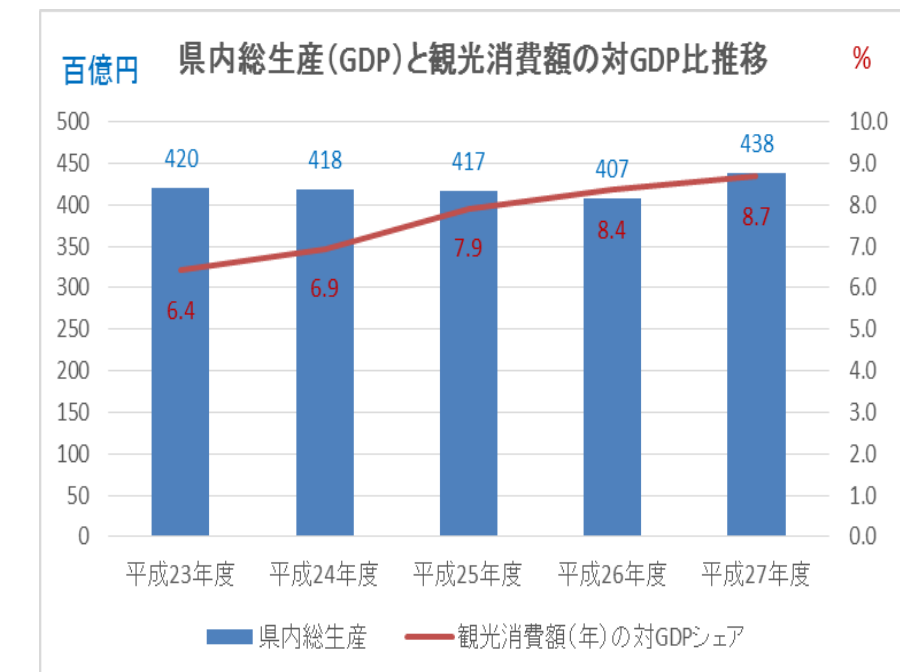
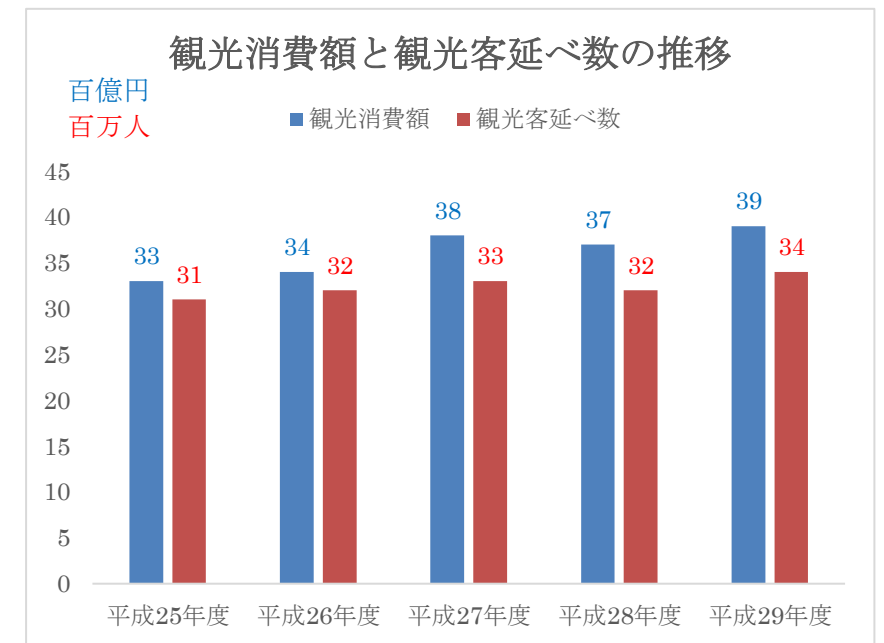
- ①旅館・ホテル・お土産品店・観光案内所 等
 - 『ワッペン着用』により、『おもてなしの心の醸成』を図る。
- ②飲食店
 - 県産品・地元食材を使った料理で、「おもてなし」をする。
- ③タクシー業界
 - 名前を名のる・・・「〇〇会社の〇〇です」
- ④県民
 - 「親切道案内」を心がける。(例:ひと角先まで道案内をする)
- ⑤社員教育
 - セミナー等の開催により、「接遇の向上」を図る。
- ⑥児童教育
 - 「出前講座」等により、観光に対する理解を深めてもらう。⇒ 観光を支える人材を育成する。
- ⑦各地域のおもてなし推進組織
 - 連携の強化・促進を図る。
- ⑧ハード面の拡充
 - Wi-Fi・外国語案内板・両替所・クレジットカード加盟店 等

将来像

『世界が認める観光県ながさき』

R1.9.23 県政出前講座資料

参考



事務局 : (一社) 長崎県観光連盟

『長崎県総おもてなし運動』・参考資料

1. 「長崎県総おもてなし運動」の経緯 及び 推進体制

- H18年10月 「長崎県観光振興条例」制定
☆観光産業は、人々の交流を増やし、農林水産業などへ幅広く活気をもたらす長崎県にとって重要なもの。
～観光立県長崎の実現を目指す～
- H19年 1月 「長崎県民総おもてなし宣言」
～おもてなし日本一の長崎県づくり～
- 〃 1月 「ふるさと長崎の旅」推進キャンペーン
- H21年 4月 「長崎県総おもてなし運動」取組開始
- 〃 4月 「長崎県総おもてなし運動参画企業」募集・認定開始
- H24年 3月 「長崎県総おもてなし運動推進会議」設立
- 〃 6月 「長崎県総おもてなし運動 行動指針」策定
- 〃 9月 「おもてなし活動6か条」策定
- H25年 6月 「ながさき・おもてなし協力隊」募集・認定開始
- H26年10月 ≪長崎がんばらんば国体・開催≫
- H28年 4月 『長崎県総おもてなし運動推進会議』事務局
長崎県観光連盟へ移管
- H28年 8月 長崎サミット開催
※「具体的取組」を提案
- H28年11月 「長崎県総おもてなし運動 促進決起集会」開催
- R 1年 6月 長崎県総おもてなし運動を観光連盟事業へ統合
※「長崎県総おもてなし運動推進会議」の発展的解消

2. 「おもてなし日本一」の尺度

- 民間のおもてなし満足度調査による。
- H26年度 : 全国 6位
- H27年度 : 全国 2位
- H28年度 : 全国10位
- H29年度 : 全国18位 (最新調査)

3. 県民が取組む「おもてなし活動6か条」

- その1 心をこめて「お・も・て・な・し」
- その2 「お」 大きな声で明るく挨拶
- その3 「も」 もっときれいに！美化運動
- その4 「て」 手を振り歓迎！観光バス
- その5 「な」 「何かあったら」お手伝い
- その6 「し」 写真で旅の思い出づくり

